

15 説教批評司会者の心得

日本基督教団桜新町教会牧師 徳田宣義

牧師：14年 説教塾11年 セミナー参加：16回

『説教分析司会者の心得 ～鎌倉セミナーで加藤常昭先生が教えてくださったこと～』

説教分析の方法にマニュアルはありません。聖書箇所には固有性があり、対象となる説教者が異なり、説教者が想定している説教の聴き手が違います。説教分析をする者は、分析の基本を体で覚え、分析の対象となっている説教に柔軟に向き合う必要があります。そのときに、語られた説教に最も相応しいアプローチの仕方があるのです。方法がわからないと表面をなぞるだけの分析となってしまいます。分析者としてのセンスが問われます。分析者には、説教者と同じように、テキストを釈義し、神学的に黙想する力が必要とされます。聴き手を想像することのできるイマジネーションも大切です。また説教者がどこに立ち、何をしようとしているのかを深く観察しながら、説教者の心に届くような批評をしなくてはなりません。説教分析の司会を担当することを知らされた私の頭に、すぐに浮かんできたのは、これらなことでした。「果たして、わたしに出来るのだろうか」。手のひらに汗を感じ、責任の重さを実感しながら、大変なことになってしまったと思いました。

説教塾のセミナーでは、くじに当たった説教者のみが説教を語る幸いを得ます。2015年度の鎌倉セミナーでは、第3日目の夜に、説教を担当する7名を決めるくじ引きがありました。さらにくじに外れた者たちの中から、説教分析の司会を5名立てることになり、私がその一人となりました。説教者は、批判を受けることを承知で説教を語ります。批判に耐えることができるのは、説教者として成長し、よりよく神の言葉に仕えたいと願っているからです。分析は、説教者の手助けになるものでなければなりません。改善の道を勧告できるような批判である必要があります。分析の時間が実り豊かな出来事とされることを願って、司会を担当することになった我々は、加藤常昭先生に分析の心得を伺いに行きました。そこで語られたことは、次のようなことでした。

- ・ 急所をつく、説得力のある批判をするために、説教の全体の構造と急所を正しく見抜くこと。
- ・ 司会者は、説教分析の議論の整理をするだけでなく、説教の急所をいち早く見つけ、急所に向かって批評のルールを敷く必要があること。
- ・ 神の名による言葉を発見し、どのように語られているかを吟味すること。もし、神の名に相応しくないものであったなら、その原因をつきとめること。
- ・ 導入の分析をし、聴き手を、聖書の言葉と出会わせているかを評価すること。
- ・ 説教者が、聖書を聴き手にどう届けているか。聖書にきちんと聞いているかを問うこと。
- ・ 語るべきところをきちんと語り、テキストの深みにまで到達しているかどうかを分析すること。

上記以外のこととして、鎌倉セミナーの中で、繰り返し加藤先生が語っておられたのは、説教の導入のことです。導入が重要であるのは、最初の数行において、すでに説教の流れがどのような方向に向かうかを示しており、説教の構造がどのようなものになるかを指し示してしまうからだと教えていただきました。また、批判をする以上は、改善提案を必要とすることが語られました。もちろん、改善提案も批判の対象となります。それに耐え得るものとなっているかどうかとも問われるのです。批判をする以上は無責任であってはならないからです。

「急所」という言葉を加藤先生がよく使われていたことも強く印象に残っています。広辞苑は、「身

体の中で、そこを害すると生命にかかわる大事な所」、「物事の要所」と説明しています。説教は、聴き手の命に深く関わる言葉です。説教を害すると神の言葉は届かず聴き手の命に関わります。もちろん、説教自体に要所が存在します。その意味で、説教分析において、説教の急所を見出すことが必要となるのです。

説教分析上達の道は、数をこなす事と共に、なんといっても加藤先生の書物を読んで理解することです。説教批判の分野における説教学研究は、多くの神学者たちによって広く耕されているわけではありません。困難な分野です。それだけに加藤先生の書物は貴重であると言わざるを得ません。

私たちが説教分析を体得するには長い年月を必要とすることでしょう。しかし、説教分析を自分のものにすることができれば、優れた説教から多くを学ぶことができます。説教者自身が説教を準備するときに、自らの説教を分析しながら備える道が拓かれます。説教分析は、説教者の牧会を支え、教会共同体の形成に仕える役割の一つを担い得るのです。

説教分析の課題を、私たち説教者は一人で抱え切れません。時間が説教者の成長を保証してくれるわけでもありません。説教者たちと共に、第1の黙想、釈義、第2の黙想、説教作成、説教、説教分析を繰り返すことが、説教者の成長に必要な訓練であると私は実感しています。神が、説教塾を通して与えてくださった恵みは、計りがたいと心から思っています。